

## 伊勢市における認知症に関する取組み

(☆) は今年度新規

### 【1】認知症に関する理解促進

認知症の正しい理解と、認知症高齢者とその家族を地域で見守る取組みをすすめ、ニーズに沿った取組みを展開する仕組みづくりを行い地域の支援体制を構築する。

#### (1) 認知症サポーター養成講座

サポーター数 9,598名 (令和元年9月末現在)

うち、キッズ・サポーター数1,551名

- ・夏季休暇中 (小学4・5・6年生) や、ビジネスパーク (中学2年生)、
- ・放課後児童クラブ等で養成講座を開催

#### (2) 認知症サポーターステップアップ講座 (☆)

認知症サポーター養成講座受講者を対象にステップアップ講座を開催。ホップ、ステップと重層的に実施。

#### (3) チームオレンジ (認知症サポーター活動促進事業) の取組み (☆)

認知症サポーターステップアップ講座とタイアップし、三重県及び県委託先「認知症の人と家族の会三重県支部」と協働で、チームオレンジの取組み実施にむけた講座【ステップ講座】と【認知症カフェ体験】という形で展開。

#### (4) 『認知症にやさしい図書館』の取組み

##### ① 認知症や介護に関する書籍「特設コーナー」の設置

平成30年度から世界アルツハイマーデーの期間に合わせ、伊勢市内2か所の図書館に「認知症や介護に関する書籍の特設コーナー」を設置。

##### ② 認知症に関するおすすめ本をまとめた『本の処方箋』を通じた情報発信 (☆)

一般社団法人伊勢地区医師会、伊勢志摩区域連携型認知症疾患センターの協力のもと、伊勢市立図書館と協働で『本の処方箋』を作成し図書館や市役所に設置・配布。

#### (5) 高齢者や認知症にやさしい応援団『こども作文コンクール』 (☆)

多世代に向けた認知症に関する正しい知識の普及啓発の取組み。

子どもたちが日常生活での体験や読書を通じて「高齢者」や「認知症」について考え、優しさや思いやりを育むきっかけとなるよう、夏休み期間中に「高齢者や認知症にやさしい応援団『こども作文コンクール』」作品募集を行った。

優秀作品5点を表彰予定で今後の啓発にも活用していく。

- ・応募数：市内13小学校 90点

## 【2】認知症への早期対応の取り組み

認知症の状態に応じた適切な支援が行われるよう、包括的・継続的な支援体制の構築と、効果的な情報発信を行う。

また、認知症の早期発見・診断・早期対応を目的に、認知症初期集中支援チームを活用し、専門機関と連携を強化し支援体制の充実を図る。

### (1) 「認知症あんしんガイドブック（認知症ケアパス）」の作成

平成28年度初版、情報に更新し現在は第6版を作成。

啓発事業や相談支援活用している。平成30年9月には『概要版』を作成、「広報いせ」に掲載し全戸配布した。

### (2) 認知症初期集中支援チーム(もの忘れ相談チーム)の活動

平成27年11月発足  
在宅で生活している40歳以上の人で認知症が疑われる、または認知症の症状があるにもかかわらず、診療を受けていない、介護保険サービスの利用につながらない、対応に困っている等の相談に対応し、医師・保健師・福祉職が連携しチームとしてサポートを行う。

・支援者件数：実43件、延べ133件（令和元年9月末現在）

## 【3】地域のネットワークの構築と見守り強化に向けて

### (1) 地域における見守り協定と協力機関

協定締結機関	20機関	(別紙参照)
協力機関	27機関	121か所



### (2) 認知症高齢者等 SOS 見守りネットワーク「いせ見守りてらす」

登録者総数 126名、実登録者数 63名（令和元年9月末現在）

#### 認知症高齢者等 SOS 家族支援サービス事業

〔位置情報システム（GPS 端末器）の貸与と初期費用の助成〕

利用者総数 5名、利用者数 1名（令和元年9月末現在）

### (3) スマホアプリを活用したみまもりネットワークの構築に向けての取り組み(☆)

モデル的に『スマホアプリでかくれんぼスタンプラリー』を開催。

啓発及び、スマホアプリを活用した声かけ捜索訓練を実施。

## 今後の課題

- ① 認知症サポーターの活動を展開していくための具体策と体制の構築。
- ② 既存の制度に加え、新しい ICT を活用した仕組みなど、安心して暮らすための活動や仕組みの充実。
- ③ 認知症初期集中支援チームで関わったケースをもとに、市全体の認知症に関する支援の質の向上を目指し、知識や技術の集積を行い地域へ還元する。
- ④ 幅広い年代層に認知症に関する理解促進を図る必要がある。学校や企業等にも働きかけ、啓発の機会を増やす。